KWANSEI GAKUIN
SCHOOL OF THEOLOGY

関西学院大学

神 学 部 報

No.123　2024.6

2024年5月24日（金）、カナダのマウント・アリソン大学から学生9名と教員2名が関西学院大学神学部を訪れ、ペーターセン・エスベン助教の「日本宗教史A」の授業内で神学部生など約60名と交流しました。この交流は昨年度に始まったもので今回で2回目。「Living with Japanese Religions」をテーマに、ペーターセン助教の講義の後、日本における仏教やキリスト教、宗教観などについて両大学の学生たちがグループディスカッションをしました。神学部生たちは「カナダの学生がもつ日本の宗教に対するイメージに驚いた」「海外の学生さんと英語でコミュニケーションをとる授業が初めてで楽しかった。仲良くなれた」などと話していました。



G号館2階 フジタ・グローバルラウンジにて

Instagram
KGTHEOLOGICA

発行　関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501　西宮市上ケ原一番町1-155
電話（0798）54-6200　FAX（0798）51-0936
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

Facebook



2024年度　始業礼拝メッセージ
「創立135年の始業を迎えて」

神学部長　岩野 祐介

4月8日　於:関西学院会館　レセプションホール

2024年度は、1889年に関西学院が創立されてから135年目の年になります。もちろん新入生の皆さんにとっては1年目です。皆さんには、新しい関学を作っていってほしいと思います。とはいえ135年のあいだ大事にしてきたこともあります。たとえば、スクールモットーのMastery for Serviceなどです。皆さんは神学部に来られたのですから、今日はMastery for Serviceのもとになったといわれている聖書箇所、マタイによる福音書20章25-28節からよく聞いて、一緒によく考えてみたいと思います。

とはいえ実は、ベーツ先生が直接この箇所を引用しているわけではありません。この箇所は、イエスの弟子たちがお互いに「自分こそイエス様の一番弟子だ」と張り合っているとき、イエスが、人の上に立ちたい、masterになりたいならば、むしろ人に仕えるservantになりなさい、と言う場面です。イエスの弟子たちは、イエスがユダヤの国を支配する主になる、と勘違いをしていて、その時には自分を他人より高い位につけてもらおう等と考えていました。しかしイエスはそういう主ではなく、人を罪から解放する、救い主としての主だったのです。

人の世界では人が人を支配しています。家では親が子供を、学校では先生が生徒を支配しているかもしれません。皆さんも親や先生に言われて勉強して、受験してきたのかもしれないですね。しかし本当に人間を支配する者がいるとしたらそれは神のみです。しかも神は、自分の意志で、自分で考えて判断して行動できるものとして人間を創り、そういう人間を愛しておられるのです。

校歌「空の翼」の歌詞では、「輝く自由、Mastery for Service」と続きます。自分が自分のmasterであるから、輝く自由があるのです。そしてその輝く自由はservice、人に仕えるための自由なのです。人に仕えるということは、キリスト教の立場から考えると、人を通して神に仕えるということでもあります。神の愛への応答として、人を愛し仕えることで、神を愛するのです。神の愛にこたえるために、お互い愛し合いなさい、お互い仕えあいなさい、というのがMastery for Serviceの根本ではないでしょうか。

キリスト教の立場では、わたしがわたしであることの根本を神が作られたのだと考えます。ですから、神が何を私たちに求めておられるか知るために、勉強し、また色々な経験をするのだと考えてみてください。そして、神は私に、このように人に仕えなさい、人と関わりなさいと命じておられるのだな、と感じられたらそのようにする、というのがserviceということではないでしょうか。

皆さんが、神はわたしに、このように皆にserviceしなさいと言っておられるのかな、という感覚をこの大学におられる間に感じて、つかんでもらえたらよいと思います。またそのために、しっかりとした自分のmasterになることができるよう、お祈りします。その仕える相手は、まずは今、始業礼拝の場に一緒にいる仲間どうしではないでしょうか。ともに神に仕え、神を愛し、隣人を愛し、隣人に仕えましょう。



あいさつ

副学部長（教務担当）　小田部 進一

私の好きな聖書箇所の一つである詩編139編に、「『闇は私を覆い隠せ、私を囲む光は夜になれ』と言っても、闇もあなたには闇とはならず、夜も昼のように光り輝く。闇も光も変わるところがない」、という言葉があります。人生には、闇でしかないと思えるような経験があります。また、世界が闇で覆われているようにしか思えない出来事もたくさん起こっています。しかし、私たちが見ている闇がすべてではないと詩編は語っています。2024年度の皆さんの学生生活が、いかなる時にも真理の光によって照らされ、導かれることを願っています。



あいさつ

副学部長（学生担当）　橋本 祐樹

神学部では38名の1年生、3名の編入生、5名の大学院生を新たに迎え、例年より少し多めの人数で、始業礼拝をもって2024年度の歩みを始めました。COVID-19の5類引き下げからおよそ一年を経て、全てではないものの、学生による部活やサークル活動が改めて活発化してきているようにも感じます。神学部の強みである少人数制を生かして学生たちを見守り、対応していきたいと考えております。学生たちのよき学びと学生生活のために、どうぞお祈りください。

始業講演「聖霊とは何か？ ―現代キリスト教の視点から― 」

加納 和寛 教授

4月8日　於:関西学院会館　レセプションホール

2023年度、私は関西学院から研究留学をいただき、1年間ドイツで研究生活を送りました。同時に2022年度より日本学術振興会科学研究促進費をいただきまして、聖霊論を中心に現代キリスト教の実相を読み解くプロジェクトを遂行中です。今回の留学はこのプロジェクトに取り組む恵まれた機会ともなりまして感謝に堪えません。

西方キリスト教では、古代に多数出現した異説（異端）的諸派が唱えたキリスト論に対し、正統教会は確固たる三位一体的キリスト論の確立に努めました。けれども聖霊論に関しては抑制的に対処し、キリスト論の陰に隠れてきた感があります。同様の傾向は宗教改革期にも見られます。おそらくはトマス・ミュンツァーなどが唱えた急進的な聖霊論的かつ終末論的な教説への反動と思われます。近代の自由主義神学においては聖霊そのものに言及しない風潮さえ見られます。



ところが信仰と宣教の現場ではメソジズムに端を発する聖霊重視の運動が進展しました。ホーリネス・ペンテコステ運動に至って聖霊への注目はますます強まりますが、そこには英語圏での直線的な展開以外にも、ドイツ敬虔主義からの影響なども見て取ることができます。今回のドイツ滞在中、19世紀半ばにブルームハルト牧師が「悪魔祓い」をしたバーデン・ヴュルテンベルク州メットリンゲンの集落を実際に訪ねることができたのは幸いでした。





メットリンゲンのブルームハルト教会

21世紀第2四半期を前に、聖霊に力点を置く信仰運動および神学研究はさらに勢いを増しています。すでにドイツの伝統ある神学部でもペンテコステ運動研究者がその冷静な観察と対話の結果を次々に公にするなどの動きが始まっています。過去の神学の遺産に学びつつ、未来のキリスト教と正面から向かい合うために、これからも研鑽を続けたいと思います。

新任あいさつ　ペーターセン・エスベン助教・宣教師

2024年4月から関西学院大学神学部に助教兼宣教師として着任しましたペーターセン・エスベンと申します。

2017年にデンマークから研究生として来日し、2020年にフランクフルト大学（Goethe-Universität Frankfurt am Main）で教会史の博士号を取得しました。私は長年にわたり、神学研究のみならず、キリスト教徒と他宗教の信者との対話、キリスト教徒と非信者との対話など、キリスト教信仰に関わる問題に取り組むことに深い関心を持ってきました。私は、神学教育と研究を通して、学術界の成長と発展に貢献することを目指しています。私は、デンマークの神学者グルントヴィ(N.F.S.Grundtvig, 1783-1872）の「能動的」で「社会的」なキリスト教を重視する哲学に影響を受け、一人ひとりの信仰の個性を引き出すことを大切にしています。グルントヴィは、人々が自分自身の精神、理想、世界観を発見する手助けをしたかったのです。グルントヴィの教えの考え方は、私自身のアプローチの基本的な側面となっています。



私は、すべての人は学びたいという欲求を持っており、その意欲を引き出すのは教師の責任であると確信しています。私は、ルソーが提唱したように、学習は書物のページに限定されるべきではなく、各個人の自然な傾向に従うべきだと固く信じています。キリスト教についても同じことが言えると思います。これから関西学院の教職員や学生の皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

新入生オリエンテーション報告

副学部長（学生担当）　橋本 祐樹

今年度は2024年4月1日（月）と2日（火）の2日間にわたって、学部の新入生41名（1年生38名、編入生3名）に対して新入生オリエンテーションを行いました。1日目は入学式と神学部チャペルでの宣誓式の後、関西学院大学での学生生活、チャペルアワー、図書室利用について説明しました。そこで「破壊的カルト」についても注意を促しました。2日目は授業の履修指導と学生生活に不可欠なパソコン関係の講習を行いました。プログラムの最後にはキリスト教伝道者コースに属する新入生を対象にそれぞれの教会や信仰について分かち合う時間を持つことができました。2年生の学生スタッフ6名の協力を受けて、全体に向けて質問コーナーを設定し、キャンパスツアーも行いました。好天にも恵まれ、桜が咲き始めたキャンパスで豊かな交流のひと時になりました。



4/2 キャンパスツアーの様子

留学報告

キリスト教伝道者コース4年（当時）　松隈 みなり

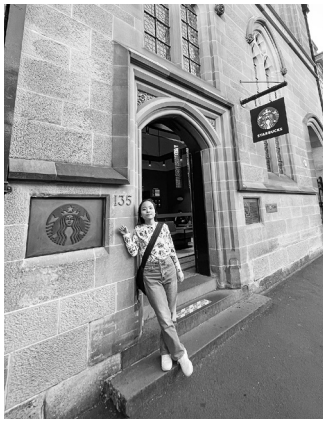
私は、カナダのセント・メリーズ大学に10か月間の留学をしました。語学学校で学んだ後、4か月は学部授業を受講して過ごしました。ホームステイや寮生活で度々問題を抱えたこともありましたが、寛容に見守ってくれる先生や友人たちのおかげで、慣れない土地でも自分らしく幸せに過ごすことができました。カナダで生活して良かったことは知らない場所や人に抵抗がなくなったことです。最初は多様な文化に触れて戸惑いましたが、周りの人のサポートを受けながら、環境に順応する力を身につけることができました。文化の違いをただ避けるのではなく、その行動を観察し理解しようと努力する時間を多く過ごし、とてもよい経験になりました。拙い英語でも楽しく会話できる素晴らしい友人たちにも恵まれました。授業で分からないことがあっても、教授に質問したり、友人に力を借りたりして乗り越えることができました。カナダの歴史や人種問題、ジェンダー理解など、学んだ内容は全て新鮮で興味深いものでした。留学を経て、新しい価値観に触れることで自分自身の価値観に向き合う機会を得ました。学んだことを活かし、他者が幸せになるために自分ができることは何かを考えて行動していきたいと思います。



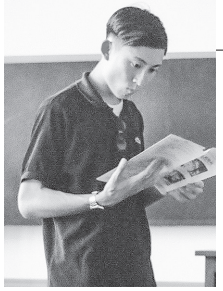
松隈さんは前列右端

キリスト教思想・文化コース3年（当時）　園田 百望

私は2023年度の春学期に約4ヶ月間、オーストラリアのクイーンズランド大学に留学しました。幼い頃から外国への憧れがあったことや、公用語が英語である国で学びを深めたいというのがその動機でした。現地の大学での授業やホストファミリーとの生活は、私にとって想像をはるかに超える特別な経験になりました。もちろん、治安の問題、考え方の違い、そして私の未熟な英語力による困りごとなどもあり、何不自由なく毎日を過ごしていたというわけではありません。しかし、そのような体験を通じてさえ、自分の意見を主張すること、何事にもチャレンジすること、そして何より、どんな時も自分らしくいることの大切さを学びました。総合大学である関西学院大学の中にある神学部での学びには、自分らしく学ぶための様々な機会が設けられていると思います。私の大学生活において、以前から興味があった神学を学ぶだけではなく、オーストラリアの大学で勉強し、現地で生活できたことは、間違いなく自分の大きな成長に繋がったと感じています。英語力はもちろん、新しく得た価値観や、留学先で感じた内面の変化を大切にして、これからの大学生活やキャリアに活かしていきたいと考えています。



学生の声　神学部で学ぶ



キリスト教伝道者コース3年　佐々木 愛

Q1.神学部に入学したきっかけは？

キリスト教とはできるだけ距離をとって生きてきたつもりでした。なぜなら私は、両親が教会で福祉活動を実践する一風変わった家庭に生まれ育ち、長い間「普通」であることにあこがれ続けていたからです。端的に言えば、自分の家庭環境が好きになれなかったのです。しかし、大学卒業後に働いていた社会福祉の現場で心境に変化がありました。生活の困難に直面する多くの方々との出会いと別れを通して、人生の意味や尊厳など重い「問い」が私自身に突きつけられたのです。そしてこの「問い」を前にしたとき、キリスト教について学びたいと思っている自分がいることに気づきました。この心境の変化が最も大きな入学の理由です。

Q2.現在神学部で興味を持って学んでいることは？

全ての授業、全ての先生との出会いが良い学びであると思っていますが、特に聖書学とディアコニア・プログラムは自分にとって新鮮で興味深い学びとなっています。それは「批判的な視点」を私に与えてくれるものだからです。こうした学びを通じて、キリスト教、そして自分の信仰の解像度が格段に上がったように思います。

Q3.将来の夢や目標は何ですか？

地域とその中にある教会で用いられる人になりたい、これが一番の願いです。従来の牧師像に満足することなく、この時代、社会、地域のニーズに応答する実践をしていきたいと思っています。より具体的に言えば、牧師として、また福祉の専門職として、老いや障がい、疾病、経済状況などによって困難を抱える方々と向き合い、地域での生活を共に模索することが私に与えられた役割だと考えています。

Q4.神学部生、神学部入学を目指している受験生に対してメッセージをお願いします。

大学での学びは「するめ」のようなものだと思います。とても地味で時間のかかるものですが、じわじわと良さが出てくるものではないでしょうか。私自身、卒業してからずっと後に「旨味」が分かった経験があります。こうした長い時間のかかる知的営みは、加速し続ける社会の流れとはかなりの乖離があるかもしれませんが、せっかくの機会なので食わず嫌いをせず、在学生の方も入学を目指している方も、ここ神学部でその美味を一緒に楽しむことができれば嬉しいです。

日本基督教団四国教区派遣神学生　研修報告

＜期間＞3月3日（日）～3月8日（金）　＜場所＞日本基督教団　四国教区

キリスト教伝道者コース4年（当時）　坂本 子龍



日土教会　坂本さんは左から3番目

私は、3月3日（日）から3月8日（金）までの6日間、四国教区の主に中予分区と南予分区の教会に実習生として遣わされました。四国教区、そして地方伝道の現状を知るため多くの教会を巡ることになりました。短い期間でしたが、伊予長浜教会の筧牧人先生、松山城東教会の寺島謙先生、大洲教会の松井曉郎先生に多くの教会を案内していただきました。教区の教会の歴史や現状について学ぶことができました。伺った教会では、祈祷会での奨励や説教奉仕も担当させていただき、それぞれの教会との交わりの中で様々なことを考える機会を得ました。

私にとって印象的だったのは活動中に聞いた説教でした。とりわけ筧先生の旧約聖書の連続講解説教に心を打たれました。聖書以外に譬えやエピソードを用いない内容でありながら分かりやすく、長尺の説教でしたが、一瞬のように感じられました。説教について先生にお聞きしてみると、この教区には優れた説教者が多いということでした。四国教区は特に説教を重視し、それが素晴らしい説教者を生む土壌という恵みをもたらしたのだと伺いました。その恵みによる説教集を読み、今後の説教に生かしていきたいと思います。

この活動に関わり支えてくださった、各教会の皆さま、教区の先生方、本当にありがとうございました。

第58回　神学セミナー報告　小田部 進一 教授

第58回となる神学セミナーは2024年2月19日（月）「明日の地域と教会」をテーマに、西宮上ケ原キャンパスF号館203号教室を会場に対面およびオンライン配信のハイブリッド形式で開催されました。プログラムの最初に神学部の淺野淳博教授より「コリント教会の会食問題と地域社会」と題して神学講演がなされ、教会のアイデンティティという観点から地域との関係を考える機会が与えられました。続いて招待講演として大石周平牧師（日本キリスト教会多摩地域教会）が「教会合同と地域―多摩地域教会の事例から」と題して同じ地域に存在する二つの教会が合同に至った経緯と今後の展望について話されました。午後には、神学部の橋本祐樹准教授より「明日の地域と教会―現代宣教学の視点から」と題して神学講演があり、将来の地域教会を考えるために現在の韓国での実践や世界教会協議会の宣教論の視点が共有されました。続いて、東島美穂牧師（日本基督教団大阪城北教会）、向井希夫牧師（日本基督教団広島流川教会）、宮本幸男牧師（日本基督教団香櫨園教会）が登壇され、それぞれの地域と教会で向き合っている諸課題、また、教会員の見守りグループや地域サロンといった具体的な取り組みについて報告されました。その後、神学部の橋本祐樹准教授と森本典子専任講師も登壇者に加わり、パネル・ディスカッションの中で意見交換を行いました。教会単位でオンライン参加された方々も多く、総勢131名（うち対面65名、オンライン66名）の参加者があり、会場では休憩時間などを利用し、活気ある交流も行われました。神学セミナーを実施するためにご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。セミナーの内容はブックレットとして今年度中に出版される予定です。


神学講演


招待講演



パネルディスカッション

追　悼　― 木ノ脇 悦郎 元神学部長 ―



木ノ脇悦郎先生は、宗教学の小林榮先生の後任として1994年4月に神学部に着任され、主に宗教改革期の神学と日本の宗教史についての授業を担当してくださいました。2005年4月から2008年3月まで学部長としてお務めになり、2008年度からは転出して福岡女学院大学長、同院長に就任されました。私は2005年4月に着任しましたが、公私において親切にしていただき、大学のことや学問のことなど多くのことを教えていただきました。木ノ脇先生のご専門は宗教改革期の人文主義者エラスムスの研究で、研究書や翻訳を公刊しておられます。自主と自由を尊重し、エラスムスの座右の銘であったConcedo nulli（私は何人にも屈しない）は先生の座右の銘でもあり、神学部での最終講義でも繰り返しておられました。パイプがお好きで、研究室でのゼミの最中「先生のパイプの匂いと、食べた唐揚げの混ざり合いのなかでのゼミだった」と懐かしく語る同窓もいます。優しいお声で、いつも笑顔の絶えない先生でした。



（土井 健司 副学長・神学部教授）

『神學研究』（71号）のご案内

論　文

マルコ11:3のὁ κύριος は誰を指しているか … 木原　桂二

福音書記者マルコはペトロの「耳撃証人」か
―パピアスの断片Ⅱ.15の信憑性に関する一考察 … 樂滿　大樹

ニュッサのグレゴリオス『モーセの生涯』における φωνή の思想
… 土井　健司

17世紀のイギリスにおけるペスト流行と教会―Eyam村の事例を中心に
… 安田　典子

研究ノート

聖書のクィアリングに関する一考察
―*The Queer Bible Commentary*（2006）と第2版（2022）の比較から
… 薄井　良子

「心」から宗教を問う… 芦名　定道

アウターブリッヂ賞受賞論文要旨

ルカ文書における神殿の意義
―使徒言行録2章46-47a節と7章44-50節を通して … 加藤　満

2025年3月発行予定の第72号『神學研究』への投稿論文を募集します。
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/teacher/research/

■ 2023年度　大学院博士課程 前期課程修了者　論文題目並びに進路

氏　名	論文題目	進　路
大仁田　空	アウグスティヌスの罪理解　―原罪におけるペラギウス主義との論争を中心に―	日本基督教団　塚口教会
朱　　榮眞	割礼の恥と誇り、十字架の恥と誇りの対比に関する研究　―ガラテヤ書6章12-15節―	学校法人　弘前学院聖愛中学高等学校（教員）
鄭　　東鎬	カルヴァン予定論の発展史的研究　―予定論とその恵みに注目して―	在日大韓基督教　大阪教会
平松　麻那	日本におけるオンライン礼拝の争点と展望	日本基督教団　奈良教会
松岡　孝司	教会の社会福祉活動と宣教　―尼崎教会の老人給食を通しての考察―	日本基督教団　東梅田教会
丸尾　彩華	宗教改革者　マルティン・ルターの救貧思想　―1517年から1523年の著作を手がかりに―	学校法人　兵庫医科大学（職員）

■ 2023年度　博士（神学）学位取得者　論文題目

氏　名	論文題目	進　路
髙木　政臣	回心の実践神学的研究　―ルイス・R・ランボーの研究方法論を基にして―	本学大学院神学研究科研究員

【2023年度　学位取得者】

■学　部：学士23名（進路：本学大学院神学研究科前期課程進学４名、企業等就職17名、牧師１名、教員１名）
［2024年５月現在把握数］

※主な就職先…日本基督教団教会、（学）聖望学園、（株）南都銀行、日本ケンタッキー・フライド・チキン（株）、オリックス（株）ほか

■大学院：修士６名、博士１名

【2024年度　学部・大学院入学者】

■学　部：新入生	38名（日本基督教団教会所属：3名）
■学　部：（3年次）編入学生	3名（日本基督教団教会所属：3名）
■大学院：博士前期課程	5名（日本基督教団教会所属：1名）
■大学院：博士後期課程	0名（日本基督教団教会所属：0名）

2025年度　神学部・神学研究科入学試験ご案内

■ 2025年度 神学部入試情報

	入試種別	出願期間	試験日
総合型選抜入試	学部特色入試（社会人、外国人留学生含む）	9月2日（月）～ 9月9日（月）	10月 26日（土）
	スポーツ選抜入試	9月2日（月）～ 9月9日（月）	9月 28日（土） 10月 26日（土）
	グローバル入試	9月2日（月）～ 9月9日（月）	9月 28日（土） 10月 26日（土）
	探究評価型入試	9月2日（月）～ 9月9日（月）	10月 26日（土）

※編入学（3年次）試験は実施しません。

入試情報詳細は以下のウェブサイトから確認ください。

◆神学部　https://www.kwansei.ac.jp/admissions/
◆神学研究科　https://www.kwansei.ac.jp/graduate/admissions/

■ 2025年度　神学研究科入試情報

＜博士課程前期課程＞

	出願期間	試験日
一　般	＜第1次＞ 8月 22日（木）～8月 29日（木）	9月　6日（金）
社会人		
外国人留学生	＜第2次＞ 2月 10日（月）～2月 17日（月）	2月 28日（金）

＜博士課程後期課程＞

	出願期間	試験日
一　般	2月 10日（月） ～ 2月 17日（月）	2月 28日（金） 3月　1日（土）
外国人留学生		

【お問い合わせ先】関西学院大学神学部　Tel.0798-54-6200
入学センター　Tel.0798-54-6135

第41回 関学ユースキャンプ ご案内



日　　時　2024年8月6日（火）11:00～8月8日（木）15:00
場　　所　関西学院千刈キャンプ　〒669-1507　兵庫県三田市香下1817-1
主　　題　「出口あるんや！！一緒にいたんや！！」
主題聖句　コリントの信徒への手紙一10章13節より
「神は真実な方です。…試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」
講　　師　山口 義人（日本基督教団 大阪城北教会 牧師）
参 加 費　12,000円
申し込み先　林 智之　〒744-0013　山口県下松市栄町1丁目1-19
日本基督教団 下松教会内　電話0833-41-0707

～講師より高校生・青年の皆さんへ～

年齢を積み重ねたから悩みが増えるのではなく、“いま”という時を生きている私たちにはたくさんの悩みや試練があります。そしてそれは時に耐えられないものとして私たちの心を覆ってしまうことだってあります。けれども、そこにこそ神さまは一緒にいてくださる！！また一歩踏み出していこうと思える瞬間を皆さんとご一緒に過ごせたらと願っています。



教員の近著紹介

関西学院大学神学部編
『関西学院大学神学部ブックレット16：キリスト教の看取り・送り』
（キリスト新聞社、2024年2月）



2023年2月20日に開催された、第57回神学セミナーの講演録です。主題講演を中道基夫・関西学院院長／神学部教授、現場報告を汐碇直美・日本基督教団奈良教会牧師（当時）および髙見晴彦・株式会社シャローム代表取締役、小野留緒記同社社員、神学講演を森本典子・神学部専任講師、シンポジウムを井上智・神学部助教、岸本光子・大阪暁明館病院チャプレン、宮岡真紀子・日本基督教団北千里教会牧師が担当されました。

東よしみ共著　関西学院大学キリスト教と文化研究センター編
『エコロジカル聖書解釈の手引き』
（キリスト新聞社、2024年3月）



本書は、関西学院大学キリスト教と文化研究センター（RCC）の研究プロジェクト「エコロジカル聖書解釈」の研究成果で、共同執筆者は大宮有博、大澤香、藤原佐和子です。教会の礼拝やキリスト教主義学校等での使用を想定し、エコロジカル聖書解釈を一般向けに分かりやすく紹介しています。東よしみは、「エコフェミニスト聖書解釈の視点で読むヨハネ福音書のプロローグ」を執筆し、受肉は被造物全体と係わることを指摘しています。

ディアコニア・プログラム報告　　森本 典子 専任講師

2023年度は、久しぶりにディアコニア・プログラムの修了生がいない年となりました。コロナ禍が始まった直後に入学した学年だったということもあり、プログラムの紹介を十分にできなかったことが理由の一つかもしれません。修了生がいない年は、報告会の開催もないのですが、2021年度に入学しディアコニア・プログラムに参加している4名の皆さんが、中間報告会の開催に協力してくれました。それぞれ「高齢者のスピリチュアリティー」「家族介護」「小児がん患者へのケア」「セックスワーカー」をテーマに取り組んでおり、ディアコニア・ワークショップA・Bで学んだことを報告しました。また、2023年度大学院を修了し、伝道師となる学生のうち二人がディアコニア・プログラムの修了生でした。今年はディアコニア・プログラムが始まり10年目となります。ディアコニアの輪がこれからも広がっていくことを期待しています。

第25回 キリスト教教育研究集会報告

2023年12月25日（月）12:30～17:45　関西学院初等部
主　　題：「聖典を訳すこと、聖典を読むこと」
講　　演：淺野 淳博（関西学院大学神学部）
現状報告：福万 広信（関西学院初等部）
参加人数：24名

MSセミナー2024 ご案内

「MSセミナー2024」は8月27日（火）～29日（木）に開催される予定です。神学部・神学研究科を卒業・修了し、2024年度に教会の現場で働いて5年目、10年目を迎えた方に既にご案内いたしましたが、万が一連絡が来ていない場合は下記へご連絡ください。すぐにご案内させていただきます。

関西学院大学　神学部補佐室
TEL.0798-54-6207（FAX.0798-51-0936）
E-mail:thhosa42@kwansei.ac.jp

＜牧会講演＞本多 肇（日本基督教団砥部教会 牧師）
＜神学講演＞芦名 定道（関西学院大学神学部 教授）

2023年度秋学期（9月～3月）神学部日誌

9/20 学部・大学院秋学期授業開始

9/30 神学基礎テスト

10/13 神学部学術講演会
「アウグスティヌス―私の内よりさらに内なる神を求めて」
（片柳 榮一 氏・京都大学名誉教授）

10/25 神学研究会「ニュッサのグレゴリオス
『モーセの生涯』における φωνή の思想」
（土井 健司 教授）

11/4～11/5 新月祭

11/ 9 教会と神学部の集い（神学部後援会主催）

11/22 神学研究会「人権擁護の視点からディアコニアを考える」
（森本 典子 専任講師）

12/ 5 神学部アドベント礼拝「平和を祈って」（井上 智 助教）

12/13 神学部クリスマス礼拝「地には平和」（芦名 定道 教授）

12/25 第25回キリスト教教育研究集会
「聖典を訳すこと、聖典を読むこと」
（淺野 淳博 教授）

1/11 ディアコニア・プログラム中間報告会

1/16 秋学期授業終了

1/17 阪神淡路大震災記念礼拝　於：ランバス記念礼拝堂

1/24 神学研究会
「ヨナ書の間テクスト性：読みの戦略（4）ーエリヤ物語」
（水野 隆一 教授）

2/ 8 修士論文口頭試問

2/19 第58回神学セミナー「明日の地域と教会」

2/28 神学研究会（神学研究科後期課程報告会）
「第二神殿期におけるエルサレム神殿と会堂（シナゴーグ）の関係について」（神学研究科後期課程1年 加藤 満）

2/29 神学生出席教会牧師との懇談会

3/ 7 新卒教会赴任予定者オリエンテーション・
神学部後援会伝道者育成奨励金授与式

3/11 東日本大震災記念礼拝　於：ランバス記念礼拝堂

3/16 秋学期大学院学位記授与式・修了礼拝／
博士（神学）甲号1名、修士（神学）6名

3/18 秋学期大学卒業式・卒業礼拝／学士（神学）22名

3/23 オープンキャンパス模擬授業（東 よしみ 准教授）

※所属・役職等は行事開催時のものです。